



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	バス停「プール前」とローソン東京学芸大学前店(fulltext)
Author(s)	鈴木,明哲
Citation	東京学芸大学大学史資料室報, 3: 55-57
Issue Date	2016-03-31
URL	http://hdl.handle.net/2309/159337
Publisher	東京学芸大学大学史資料室
Rights	

バス停「プール前」とローソン東京学芸大学前店

東京学芸大学大学史資料室 鈴木明哲

東京学芸大学の東側、グラウンド門を出て、新小金井街道を渡ったところにローソン東京学芸大学前店（以下、ローソン）があります。そこにかつて本学のプール（以下、旧プール）があったことをご存じでしょうか。付近には京王バス「武31」系統、「中大循環」線のバス停「プール前」（武蔵小金井駅北口方面行き）もあります。まさにこのバス停の名前、「プール前」がかつてこの地にプールがあったことを私たちに伝えてくれています。ローソンの隣には本学の「コミュニティセンター」、そして防災倉庫のコンテナが設置してあり、何となく本学の敷地の一部であるかのような雰囲気です。それもそのはずで、かつてこの地には本学のプールがありました。

本学が小金井移転を決めたのは1946年5月7日のことでした（『東京学芸大学五十年史 通史編』＝以下『五十年史』と略記、p.104）。旧陸軍技術研究所の跡地でしたが、その敷地は現在とは大きく異なり、特に東側の境界線は現在の東側道路よりもさらに300m東側、つまり市立本町小学校の西側道路にあったそうです（『五十年史』p.105）。ところが1947年5月27日、火災が発生し、失火のあった場合は土地を没収されるというアメリカ軍の指示に基づき、現在の東門より東側の敷地を没収されてしまいました（『五十年史』p.106）。この没収された東側の敷地の中に、現在のローソンのところにあった旧プールも含まれていました。この旧プールは元々、陸軍技術研究所時代に舟艇実験場として作られましたが、本学が必需の教育施設として没収対象から除外するようアメリカ軍や関東財務局に懇願した結果、その保有が認められました（『五十年史』p.106）。水泳教育に対する本学の並々ならぬ意欲がうかがえます。このような経緯から、現在の敷地から飛び出したようなかたちで現在のローソンのところに本学の旧プールが位置することになりました（『東京学芸大学五十年史』p.105 図1-7 参照）。

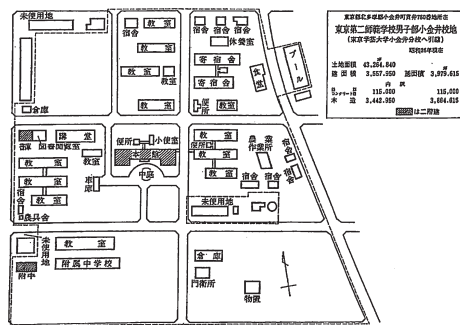


図1-7 東京第二師範学校校地（仮）

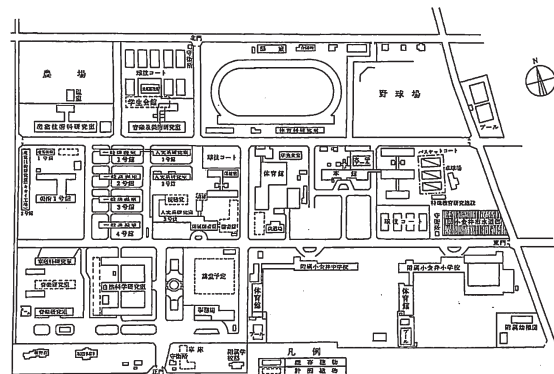


図1-9 東京学芸大学小金井地区配置図（1969年3月末現在）

『東京学芸大学五十年史』P.105 図1-7（1951年）

『東京学芸大学五十年史』P.114 図1-9（1969年）

旧プールについて、昨年度まで本学の水泳教育にご尽力いただいた名誉教授の柴田義晴先生にお話をうかがいました。柴田先生は1968年本学入学であります。先生によりますと、旧プールは1949年に大学プールとしての使用が始まり、1971年に現在の50mプール（以下、新プール）ができるまで、およそ22年間使われていたそうです。ちなみに1969年の「配置図」（『東京学芸大学五十年史』p.114 図1-9 参照）を見ても、まだ旧プールは残っていますし、新プールが完成した1971年度の『大学の生活』という冊子の巻末に綴じられている「学内見取り図」にも、依然旧プールは示されてあります。

では、旧プールはどのようなプールだったのでしょか。引き続き柴田先生にうかがいました。併せて先生からご提示いただいた2枚の写真も御覧下さい（写真A、B参照）。これらは1968年9月に開催された関東地区国公立水泳競技大会の写真になります。写真Aは、現在のローソンのあたりから西側（新小金井街道方面）へ向けて撮影されており、写真Bは反対に道路側から東側へ向けて撮影されています。スタート台は現在のローソンの南側に位置し、北側へ向けて泳いだようです。現在のローソンのレジが置かれているあたりから飛び込んでいたことになるのでしょうか。ちなみに第5レーンの選手が柴田先生ご本人です。写真Bの右奥には、コンクリート建物の潜水訓練施設が映っています。

す。これも陸軍技術研究所に由来する建造物だそうですが、プールが大学の所有になってからは一度も使われた形跡はないそうです。

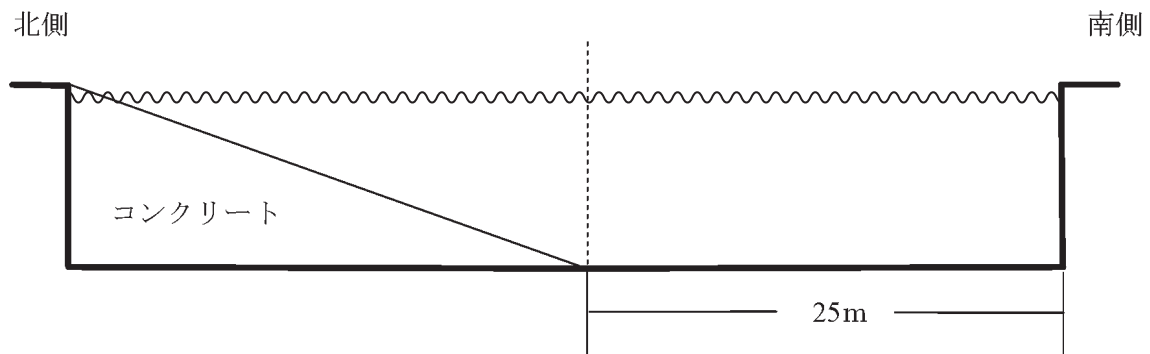


関東地区国公立水泳競技大会（1968年）写真A



同左 写真B

さて、プールの形状ですが柴田先生によりますと以下のような断面図になります。



北側に行くに従い、水深が徐々に浅くなり、ちょうど海浜のような形状をしていたそうです。上陸訓練用のプールだったのではないかと柴田先生は仰っております。クラブや水泳の授業では、水深が一定している南側の25mだけを使用していたそうです。このプールの大変だったところは、循環装置がなかったために時に水面が藻に覆われ、プールから上がった時には全身緑色に染まっていたそうです。元々は人が泳ぐためのプールではなかったことがわかりますが、先輩たちの苦勞が偲べれます。

なお、先にも挙げました1971年度の『大学の生活』という冊子によりますと、当時、本学では水泳は必修とされ、全学生が最低50m泳げないと単位が取れないことになっていたと記されております（p.96）。つまり、卒業要件になっていたということで、今からは想像もつかない厳しさですが、そのような先輩たちが学校の先生となり、子どもたちの運動能力を支えてくれていたのでしょう。先輩たちの力強さに感服です。

さて、最後になりましたが、バス停「プール前」についても少し触れておきましょう。（バス停「プール前」の写真参照）（株）京王電鉄バス管理部経営企画担当の渡辺耕祐さんに電子メールでうかがいました。渡辺さんによりますと、1956年に「武蔵小金井駅前～学芸大北門～サレジオ学園前」という路線が開業し、その時にバス停「プール前」が誕生しました。もうじき満60年になります。渡辺さんからは、「長年に渡り地域になじんでいる名前なので、現在でもバス停名称として使用し、今のところ名称変更の予定はございませんが、将来にわたりこの名称が継続使用されるかは正直わかりかねます。何卒ご理解下さいませ」というお返事をいただきました。当分の間はなくなる様子。なぜか

ほっと安心しました。そして勝手に東京学芸大学を代表して（株）京王電鉄バスに、バス停「プール前」の存続を要望
させていただきました。

かつてローソン東京学芸大学前店には本学のプールがあり、しかもそれは陸軍技術研究所から続く戦争の時代を伝え
る建造物であったことを、バス停「プール前」の標識は私たちにひっそりと伝えてくれています。



バス停「プール前」 2016.2月撮影